

令和4年度 秋の公開

特別活動学習指導案

指導者 北信教育事務所 主任指導主事 栗津原弘文 先生
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 教授 越智 康詞 先生
日時 令和4年11月21日(月)
授業学級 1年B組(41名)
授業会場 武道場
題材名 「学級目標を実現しよう②」
授業者 木内 浩司

I 本校全体の研究の概要

- 1 令和4年度 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」・・・・・・・・・・特活1
- 2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え・・・・・・・・特活1
- 3 令和4年度 研究の全体構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・特活2

II 特別活動の研究

- 1 特別活動の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・特活3
- 2 領域としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め・・・・・・・・特活3
- 3 研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・特活3

III 題材の指導計画

- 1 題材名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・特活4
- 2 題材の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・特活4
- 3 題材の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・特活4
- 4 特別活動として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・特活4
- 5 題材に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・特活5
- 6 題材展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・特活6

信州大学教育学部附属長野中学校 特別活動

研究者 木内 浩司 中村 満
青木 孝文 金箱 仁志

I 本校全体の研究の概要

1 令和4年度「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」

目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方（2年次）

2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え

学校教育目標「ともに学び 一人となる」の下、日々の教育活動に努める私たちは、令和2年度末、それまでの教育活動において「育っている生徒の姿」と「さらに育てたい生徒の姿」を洗い出し、令和3年度において、本校の「目指す生徒の姿」について検討した。以下はそこで出された意見の一部である。

- ・学ぶことがおもしろい、楽しい、もっと学びたいと願う生徒
- ・解決したことを基に、新たな問いをもつ生徒
- ・学習や人生において、各教科等の「見方・考え方」を、自在に働かせていく生徒
- ・自分の学びを客観的に捉えたり、友の考えを批判的に捉えたりするなど、学びを自覚することができる生徒

なお、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の第1章総説1の(2)③では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進において、次のような生徒の姿が求められている。

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする

私たちは、令和3年度において、「目指す生徒の姿」を検討した際に出された上記の姿と、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編において求められている生徒の姿が重なると考えた。そこで私たちは、目指す生徒の姿の具体を「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と捉え、本校が目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」と据えた。

次に、私たちは、「学びを拓いていく生徒」を具現するために令和2年度までの研究を基にして、全校研究テーマについて検討した。そこでは、各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことを「各教科等の本質」、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉えることを職員間で共有した。そして、この二つの本質は、「学びを拓いていく生徒」の具体とした「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」を迫るものであること、「各教科等の本質」を目指す中で「学びの本質」が生まれることの2点を確認した。そこで、私たちは、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、その具現を図ることとした。

3 令和4年度 研究の全体構想

(1) 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

(2) 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方

(3) 研究の重点

<p>重点1 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする 単元や題材の学習問題の解決（達成）を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付ける（単元や題材）。思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付ける（本時）。</p>
<p>重点2 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする ①「分かったことや分からなかったこと」「疑問に思うこと」「さらに生かせそうなこと」など、振り返りの視点を基に、単元や題材を振り返る場を位置付ける。 ②単元や題材の初めの姿と終末の姿を比較し、分かったことやできるようになったことと、その理由（学習過程）を振り返る場を位置付ける。 ③単元や題材を通して、学習したことを生かすことができるような課題に取り組んだり、課題に取り組んだ後に、単元や題材で学んだことを振り返ったりする場を位置付ける。</p>

(4) 各教科等で育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等	各教科等で育成を目指す資質・能力	各教科等の研究テーマ
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方
社会	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方
数学	数学的に考える資質・能力	数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力	観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力	音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力	主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	運動や健康についての課題を合理的に解決する力を高める学習の在り方
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力	(技術分野)社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方 (家庭分野)生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方
英語	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力	事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方
道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳性を養うための学習の在り方
総合的な学習の時間	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力	自ら課題を設定する力を高める学習の在り方
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力	学校生活をよりよくするための課題を解決する力を高める学習の在り方

II 特別活動の研究

1 特別活動の研究テーマ

学校生活をよりよくするための課題を解決する力を高める学習の在り方

2 領域としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め

「学級目標を実現しよう①」（令和4年8月・1年）では、学級の課題とそれを解決するための取組について合意形成を図り、主体的に取り組む学習を構想した。ここでは、合意形成を図って決め出した取組を実践した後、「学級目標実現チャート」（図1）を使って取組を実践した成果と課題を振り返り、再度実践を決め出す展開を位置付けた。

1年B組では、学級目標「樹」に込めた願いの一つである「伝統」を具現するために、学級の課題を「清掃の質の向上」とし、それを解決するための取組を「黙想前に清掃場所に行く」と決め出し（図1①）、個人の取組も決め出した（図1②）。学級で取組を実践した後、S生は「学級目標実現チャート」に記入した個人の取組の成果と課題について、「6時間目の後にすぐに片付けをし、黙想前に清掃場所へ移動できた。全員が清掃により集中して取り組むことで、以前は手が回らなかった部分もできたので、質が高まっている。」と振り返った。また、S生は、T生の「私たち外掃除は、時間的な余裕がないため取組が十分実践できなかった。」という発言を聞き、「掃除場所ごとに状況が変わるので、清掃場所ごとに集まって取組を見返してはどうか。」と自分の考えを述べた。その後、友もS生の考えに賛同し、清掃場所ごとに取組を見返した後、S生は、自分の取組を再度を決め出し、実践した。このようなS生の姿は「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、学級の課題とそれを解決するための取組について合意形成を図り、主体的に取り組むことができた姿であり、学校生活をよりよくするための課題を解決する力を高めた姿であると捉える。

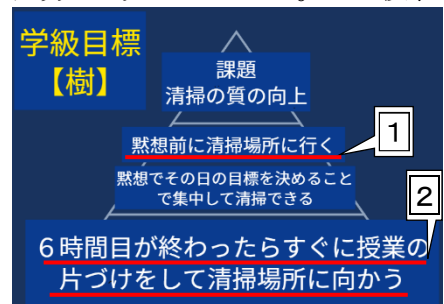


図1 S生の「学級目標実現チャート」

題材の終末、学級の課題を見だし、合意形成を図って決め出した取組を実践した過程で学んだことについて、これからの生活や学習に生かすことができそうなことをまとめる活動を位置付けた。S生は、『学級目標実現チャート』に書き出したことで、学級目標を実現するために取り組んでいるということ把握しつつ実践できた。また、実践した後に実践について話し合うことで、より充実した次の活動に繋がったと思う。これからも取組を行った後に友と話し合うことで、よりよい取組になり、自分たちが目指す学級に近付いていくと思う。」とまとめた。このようなS生の姿は、学級の課題とそれを解決するための取組を合意形成により決め出し、取組の成果と課題の要因を明らかにして振り返ることで解決の見通しをもった姿であり、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿と捉える。

上記のような学習を積み重ねていくことで、特別活動の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

3 研究内容

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編第3章第1節1学級活動の目標には、「学級活動（1）における学習過程（例）」（図2）が示されており、「⑤振り返り」（図2①）には「実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、結果を分析し次の課題解決に生かす。実践の継続や新たな課題の発見につなげる。」と

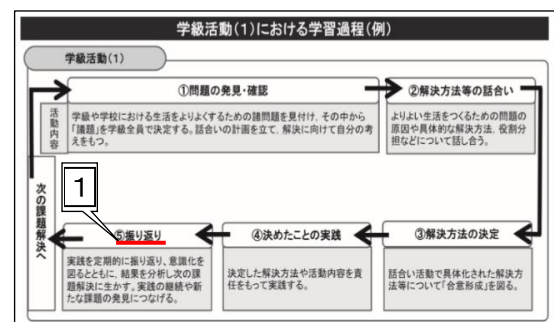


図2 学級活動(1)における学習過程

ある。さらに、「課題を自分事として捉えるということは、自分は学級や学校の生活をよりよくするために何ができるかということを考え、意思をもって実践することである。」とある。そこで本校特別活動係では、「⑤振り返り」の後、再度「④決めたことの実践」に取り組むようにする。そこでは、できなかった要因に着目して整理することに加え、できた要因に着目した整理も行い、理由を明確にしたり、共有したりすることで、生徒が、再度実践に向かっていくような題材展開を構想する。このようにすることで、生徒は、学級目標を実現するために、合意形成に基づき、集団の形成者として、自分には何ができるかを主体的に考えて意思をもって取組を実践し、学校生活をよりよくするための課題を解決する力を高めることができると考えた。

Ⅲ 題材の指導計画

1 題材名・学年 「学級目標を実現しよう②」・1年

2 題材の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能【(1)ア】

学級の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けることができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等【(1)ア】

学級の生活をよりよくするための課題を見だし、課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

学級における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 学級の生活上の諸問題を話し合っ解決することの大切さを理解し、他者と協働して取り組むこと 技 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	思 学級の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 ① ② 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図っている。 ③ 課題解決に向け、協働して実践している。	態 学級における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

4 特別活動係として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 研究の重点1に関わる仮説

- ・合意形成を図って決め出した取組を実践した後、「取組整理チャート」を使って取組を整理し、再度実践する展開を位置付ける。このようにすることで、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、学級の課題とそれを解決するための取組について合意形成を図り、自主的・実践的に取り組むことができる。(題材)
- ・実践した取組に対する成果と課題の要因を「取組整理チャート」を使って整理し、今後の自分の取組を決め出す活動を位置付ける。このようにすることで、学級の取組に向けて自分ができることを友と協働しながら実践する意欲を高めることができる。(本時)

(2) 研究の重点2に関わる仮説

- ・題材の終末、題材「学級目標を実現しよう①」で振り返ったことが、学級の課題を見出したり、合意形成を図って決め出した取組を実践したりした過程など、本題材を通してどのように生かすことができたかを振り返り、これからの生活や学習に生かすことができそうなことを再度まとめる活動を位置付ける。このようにすることで、一人一人の考えを踏まえながら合意形成を図ったり、自分から主体的に関わって問題を解決しようとしたりしていくことの実用性を実感することができる。

5 題材に寄せた教材化

(1) 合意形成を図って決め出した取組を実践した後、「取組整理チャート」を使って取組を整理し、再度実践する展開を位置付ける

1年B組は「自立・伝統・成長・協力」といった願いが込められた「樹」(図3①)を学級目標としている。目指す姿を「先輩方のように、附属長野中学校で大切にされてきた伝統を守りつつ、自分で考えて行動すること」とし、本題材では、この姿を実現するために、学級の課題を解決していくことを目指す。

生徒は、課題を解決するための学級の取組を決め出し(図3②)、その具現に向けて自分ができることを考える(図3③)。このようにすることで、自分がすべきことを明確にしたり、自分の取組は、学級目標を実現するためのものであるということを実感したりすることができる考えた。

第3時(本時)、教師は、これまでの自分の取組の成果と課題を尋ね、おおむねできている生徒の考えや自分の取組に自信をもていない生徒の考えを取り上げ、学習課題「実践した自分の取組に対する成果と課題の要因を『取組整理チャート』を使って整理し、今後の自分の取組を決め出そう。」を据える。生徒は、「取組整理チャート」に記述した自分の取組(図3③)について、できたことやできなかったこと(赤)を伝え、それらの要因について友と話し合ったこと(黄)を「取組整理チャート」に書き加えていくだろう(図3④、図3⑤)。話し合いを終えた後、教師は、これまでの自分の取組や、友と話し合ったことを踏まえて、これからの自分の取組を決め出し、「取組整理チャート」を更新する場を設ける。生徒は、話し合ったことを基に、「呼び掛けは学級のためなので、自信をもって行ったり、呼び掛けにも応えたりして、学級の一員として全員が協力していきたい。」などと、次の実践に向けた見通しをもつだろう。このようにすることで、学級の取組に向けて自分ができることを友と協働しながら実践する意欲を高めることができるだろう。

以上のような展開を位置付けることで、生徒は「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、学級の課題とそれを解決するための取組について合意形成を図り、自主的・実践的に取り組むことができるだろう。

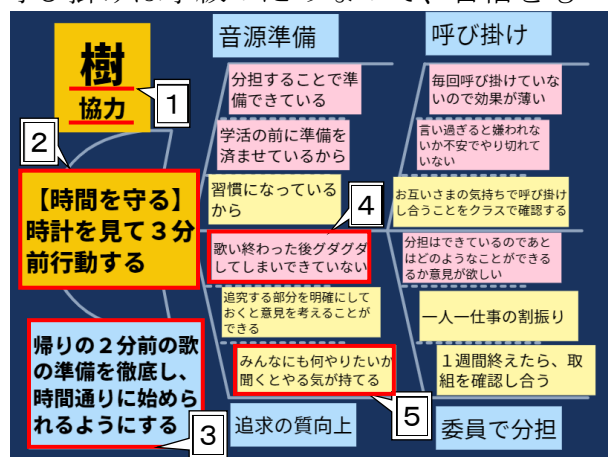


図3 「取組整理チャート」の例

(2) 題材の終末、題材「学級目標を実現しよう①」で振り返ったことが、学級の課題を見出したり、合意形成を図って決め出した取組を実践したりした過程など、本題材を通してどのように生かすことができたかを振り返り、これからの生活や学習に生かすことができそうなことを再度まとめる活動を位置付ける

取組の実践を終えた後、教師は、上記の活動を位置付ける。生徒は図4のように考えるだろう。さらにこのように考えたことを踏まえ、図5のようにまとめるだろう。

このようにすることで、一人一人の考えを踏まえながら合意形成を図ったり、自分から主体的に関わって問題を解決しようとしたりしていくことの有用性を実感するなど、学んだことの意味や価値を実感することができるだろう。

取組を行った後に話し合いをすることで、お互いに実践した自分の取組に対する成果と課題の要因を考えることができ、それらを次の取組に生かすことができたと思う。

図4 生徒の振り返りの例

学級の課題や取組を全員で決め出したからこそ、本気で解決しようという気持ちで取り組めたと思う。個人の取組に対する成果と課題の要因を考え、話し合うことで、よりよい取組が見えてきて、課題の解決に繋がっていった。一人一人が学級の課題を自分事として捉え取組を実践していきたい。

図5 生徒のまとめの例

6 題材展開 学級の課題とそれを解決するための取組について合意形成を図り、自主的・実践的に取り組む学習 全4時間扱い 本時は第3時

段階	◆学習		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	◆学級の課題を解決することを通してよりよい学級にしようとする意欲を高め、取り組むべき学級の課題を決めだす。		思技 ② (観察・ロイロノート)	1
	<ul style="list-style-type: none"> 事前に生徒から挙げられた複数の学級の課題を伝え、学級目標を実現してくためには、どの課題を解決していけばよいかを問う。 アのような反応から、様々な課題があることを確認し、題材の学習問題「学級目標を実現するために、学級の課題を解決しよう。」を設定する。 どの課題について学級として取り組んでいくとよいか話し合うことを確認し、議題「学級目標を実現するために取り組むべき課題を決め出そう。」を据える。 担当の生徒に司会をするように促し、必要に応じて助言をする。 合意形成して決めだした学級の課題を全体で確認する。 	<p>ア 以前に、清掃についてクラスで話し合い、清掃への取組が改善されてきたが、最近その意識が薄れてきているように思う。学級目標の「協力」の視点から見ると、時間を守る意識も欠けていると思う。友は学級目標の「伝統」の視点から見ると「挨拶」が課題だと考えていた。</p> <p>イ 清掃について話し合っ、課題に対する取組を実践した時には、みんなで同じ目標に向かってがんばっていかうとする姿が見られた。今回も前の時のように、みんなで話し合っ課題やその取組を決めて、取り組んでいくことで、学級目標に込められた願いを達成していきたい。</p> <p>ウ 話し合いでは、清掃への取組、給食の残飯、授業へ取組などが多く出され、どれも学級の課題である。どの課題にも共感できるからこそ、なぜその課題を解決していくことが大切なのか、その理由を聞きながら、みんなが意欲をもって取り組める課題にしていきたい。</p> <p>エ Aさんが言うように、「時間を守る」ための取組を考えていくことで、2分前学習がきちんと行えるようになるし、黙想もチャイムで始められると思う。そうすることで、「樹」の協力が実現できると思うので取組を考えて実践していきたい。</p>		
展開	◆課題に対して、学級全体での実践する取組について合意形成を図り、取組を実践する。		思技 ② (観察・ロイロノート)	2
	<ul style="list-style-type: none"> 担当の生徒に司会をするように促す。(以下、□は司会の生徒) □前時の話し合いから、議題「『時間を守る』ための学級の取組を決め出そう。」を据える。 □課題を解決するための取組について四人班で話し合う場を設ける。 机間指導を行い、方法だけではなく、学級目標と関わらせているかなど必要に応じて助言をする。 □四人班で出された取組を全体で共有する。 □四人班で出された取組を基に学級全体で合意形成を図る。 □決まった取組を実践していくことを確認し、「取組整理チャート」1 2に記述する場を設ける。 	<p>オ 私は、いつも時計を見て行動することを提案したい。1 Bは、話をしたり、作業をしたりしていると、つい時計を見ることを忘れてしまい、気が付いたら授業直前になっていることが多くある。始まりの時間を揃えることは、「協力」「成長」といった学級目標に込められた願いと繋がってくると思う。</p> <p>カ 時計を見て行動することを提案したが、友が言ってくれたように、何を意識するかが大事だと思うので、3分前、2分前などの具体的な数字があると分かりやすい。</p> <p>キ 私たちの班では、3分前着席するという取組がよいという話になった。「3分前」ということを意識していれば、時間に余裕をもってそれぞれの活動を行うことができる。</p> <p>ク 他の班は、3分前だと着替えや移動教室で難しいという話から、3分前着席に絞った方がよいという意見だった。</p> <p>ケ グループから出された取組の共通点として、3分前行動が当てはまるように思える。できていなくても意識することが大切だ。3分前に着席できれば、2分前学習にも間に合うし、給食を食べる時間も多くなるので、「時計を見て生活し、3分前行動をする。」という取組を学級で大事にしていきたい。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 決め出した取組に関わって自分ができるようなことを「取組整理チャート」3に記述し、個人の取組を四人班で共有する場を設ける。 	<p>コ 私は、学芸委員として、帰りの2分前の歌を徹底するために、時計を見て3分前行動をする。そして、みんなが合唱に取り組めるように、事前に音源の準備をしたり、パートリーダーと内容を確認したりする。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 各自取組を実践していく中で、取組を振り返り「取組整理チャート」4を記述する場を設ける。 	<p>サ 時間を意識して音源やピアノの準備ができているが、時間通りに始まらない日もある。もっと呼び掛ければよいのだけれど、言い過ぎると嫌われないか不安な部分もある。</p>	思 ② (観察)	短学活	

展開	<p>本時のねらい：学級の取組に向けて自分ができることを友と協働しながら実践しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> シのような反応を取り上げる。 別の生徒にK生の取組の様子について尋ねる。 できるようになってきたことがある一方で、サのような振り返りを取り上げ、学習課題「実践した取組に対する成果と課題の要因を『取組整理チャート』を使って整理し、今後の自分の取組を決め出そう。」を据える。 四人班で、事前に伝えていた自身の取組について、成果や今後の取組についての考えを伝え合うように促し、「取組整理チャート」に記述する場を設ける。 話し合いを基に、再度自分の取組を決め、「取組整理チャート」に新たに記述する場を設ける。 本時の学習を振り返る場を設ける。 	<p>シ コロナの影響で十分に歌うことができなかったが、2分前の歌では、「自分の一步」の追求箇所を考えるために、時間通りに始めることができた日もあった。一方で、始められない日もあり、呼び掛けを徹底して行えなかったことが理由のように思える。</p> <p>ス Kさんが、呼び掛けをしてくれていることに気付いて私が行動できた日もあったので、とてもありがたい。周りが呼び掛けを聞くことも大切だと思う。</p> <p>セ 確かにKさんのように、周りのみんなにも声をかけることができればよいけれど、自分もなかなかそれができない。他の人にも意見を聞くことで、できる工夫を見付けたいし、Kさんや他の人はどういう思いや工夫をして取り組んでいるのか聞いてみたい。</p> <p>ソ 私は自分の取組をやろうとはしているけれど、実際にできているのかどうか分からないところもある。</p> <p>タ グループの人は、自分ががんばってきたことを認めてくれてうれしいが、Yさんのように、すべての場面において時間を守れているかというところでもない。他の係の呼び掛け等の仕事に関しては、意識が薄まってしまっているので、自分の委員会と同様に考え、過ごしたい。</p> <p>チ 間に合っている人にどうして間に合うことが多いのか聞いてみると、次の準備を済ませた後休み時間などを過ごしている、とのことだった。これを全員で共有すれば、間に合う人が増えると思うので取り組んでみたい。</p> <p>ツ 私としては呼び掛けを行っているつもりだったが、Tさんに、「呼び掛けに関してはお互い様なので、呼び掛けを積極的にしてはどうか。」と提案され、なるほど、と思った。具体的な案をもらえたので、取り組んでみたい。</p> <p>テ 朝と帰りの学活でも呼び掛けをしたり、協力してくれることに感謝を伝えたりしながら行動することに取り組む。その結果、学級目標に近付いていくように思う。</p> <p>ト 友達と話し合うことで、できなかった理由が見えてきた。自分ができることを見返す中で、自分の取組の方向は正しいと自信がもてた部分もある。継続して取り組み、学級目標実現に向け学級全員で頑張っていきたい。</p>	10分	思③ (観察・ロイロノート)	3 (本時)
	<p>決め出した個人の取組を実践する。</p>				
終末	<p>◆一人一人の考えを踏まえながら合意形成を図ったり、自分から主体的に関わって問題を解決しようとしたりしていくことの有用性を実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組の実践について、成果と課題を共有する。 学級などの集団の諸問題を解決するために大切なことについて友と意見交換した後、自分の考えをまとめる場を設ける。 	<p>ナ 時間を守る意識は、呼び掛けが活発に行われるようになったことや、2分前学習が9割方時間通りに始められていることなどから、学級全体でだいぶ高まっていると感じる。時間を守った結果、活動が充実するので、授業や係活動などで、積極的に発信をすることが次の課題なのではないだろうか。</p> <p>ニ 学級の課題や取組を全員で決め出したからこそ、本気で解決しようという気持ちで取り組めたと思う。個人の取組に対する成果と課題の要因を考え、話し合うことで、よりよい取組が見えてきて、課題の解決に繋がっていった。一人一人が学級の課題を自分事として捉え取組を実践していきたい。</p>	10分	知 (ロイロノート)	4